

1. 活動目的

(1) 対象児童 A

- ・要求伝達を身につける。
- ・適切な言葉を選び、疑問文の獲得を目指す。

(2) 対象児童 B

- ・ひらがなの書き取りを身につける。

2. 対象児童について

(1) 対象児童 A…小学部 6 年で自閉症の児童。

(2) 対象児童 B…小学部 3 年で知的障がいのある児童。

※上記以外でも小学部の児童生徒が iPad を使用している。

3. iPad の使用状況

- ・ 9 月から各学級に順番に貸し出し、その後は指導者からの申し出で貸し出しを行っている。
- ・ 小学部で使えるようなアプリケーションを担当者がインストールし、教師に紹介している。
- ・ 11 月に iPad の活用方法について校内研修会を行った。

4. アプリケーション

現在使用しているアプリケーションは以下のとおり。

対象	アプリケーション	機能	活用方法
A	ねえ、きいて	要求をシンボルと言葉の読み上げによって二語文で伝える。	主に自立活用で使用。簡単な要求の補助に用いるとともに、二語文の話し方を学ぶ。
	絵カード/C	シンボルを並び替えると、音声で読み上げてくれる。シンボルを自由に増やすことができる。	主に自立活動で使用。「誰(へ)」「何(を)」「どうしたい」という要求を伝える手立てとすると共に、三語文を学ぶツールとする。
	ホワイトボード	文字や絵を自由に書くことができる。	日常生活全般で使用。不明瞭な発音から言葉が通じない時に、文字や絵を書いて伝える。
B	かなもじ	ひらがな・カタカナのなぞり書きができる。文字をタッチすると読み上げてくれる。書き順を数字で示してくれる。	国語の時間に使用。ひらがなのなぞり書きを練習したり、読み上げ機能で読み方を確認したりする。 

その他の児童	うごくおえかき	画面をタッチすると音とともに虫が出てきて画面を動き回る。iPad を振ると虫は逃げていく。	自立活動で使用。手指を使って画面に触れ、音と虫の動きを見てまた画面を触るという行動から手指の使い方を学ぶ。また、ゲーム感覚でも使用できる。
	もじルート	画面上の乗り物を動かして文字や数字を完成させる。正しい書き順でないと乗り物を操作できない。	国語の時間に使用。正しい書き順を身につけさせる。また、指先で線の上をなぞる練習として用いる。
	Talking Tom2	画面上の猫がしゃべったことをオウム返しする。また、タッチすると嫌がる等の反応を示す。	自立活動で使用。発声・発語を促す。またタッチによる反応を楽しむゲームとして使用する。
	AnimalSound	動物の写真をタッチすると鳴き声を聞くことができる。	国語の時間に使用。動物の鳴き声を聞いて同じ動物のカードを選んだり、名前を答えたりする。
	U z	アナログ・デジタル両表記の時計で、視覚的に残り時間がわかる。	日常生活全般で使用。時間を設定する際に用いる。
	Safari (インターネット)	インターネットを閲覧できる。	主に生活単元学習で使用。校外学習先の施設を調べたり、学校 HP にアクセスして過去の行事の様子を見たりする。

5. これまでの取り組みの成果

- ・小学部 19 名のうち、半数以上の児童が定期的に iPad を活用した学習に取り組んでいる。
- ・対象児童 A は自立活動の時間を中心に iPad を活用している。
- ・対象児童 B は国語の時間に iPad を活用している。